

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 支援－01

学校名・団体名	八戸市立種差小学校
HPアドレス	<a href="http://www.hachinohe.ed.jp/taness_e/">http://www.hachinohe.ed.jp/taness_e/</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	三陸復興国立公園種差海岸の復興を 映像やカルタ作りでPRしよう
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>種差海岸は、東日本大震災の津波の被害を受けたが、徐々に復興して いっている。平成25年に三陸復興国立公園の指定を受け、環境省の種 差海岸インフォメーションセンターの開所に伴い、年間30万人の観光 客が訪れるようになってきている。</p> <p>昨年は、本校の総合的な学習の一環として、「種差らしいお菓子づくり プロジェクト」を進め、3種類のお菓子を開発、販売まで進めることが できた。</p> <p>今年度は、種差の自然の美を上空写真・DVD映像にして紹介する、自然 の美を「かるた」という表現形式で紹介する、これらの活動を通して、 三陸復興国立公園種差海岸の完全復興をアピールしたい。</p>	

報告1・・・上空からの画像を紹介する活動を通して、種差海岸の復興をアピールする



報告2・・・本校の様々な教育活動をDVDに編集することを通して復興をアピールする



報告3・・・三陸復興国立公園種差海岸のよさ・素晴らしさを「種差景観カルタ」に表し復興をアピールする



8か月かけて取り組んできたかるたづくり・・・12月21日にはハードケース入り、解説付「種差景観かるた」がようやく完成した。

【種差景観かるた】を報道関係者等へ紹介

- 1 日時 平成28年12月22日(金) 場所：八戸市立種差小学校・音楽室  
指導してくださった元八戸工業大学の月舘屠敏栄先生、青森県都市計画課の小笠原さん、八戸自然保護官：知識さん、八戸工業大学生6名、地域連携協議会長：岩舘さん、公民館長：丹波さんをお迎えし、かるた大会を実施した。
- 2 内容 「種差景観かるた大会」(かるた完成のお披露目会として実施)を通して、種差のよさ、美しさを再確認し合う。
  - ①かるたの取組について・・・6年児童5名が分担しPPT資料をもとに説明
  - ②かるた大会のルール説明・・・学年別の競技、枚数で学年の1位を決定
  - ③かるた大会実施



④感想発表、お礼の言葉(学級1名、3名)

⑤参観者の先生方から (岩館地域学校連携協議会長・全体指導の月館先生)

地域を代表して連合町内会長も務めておられる岩館さんには、お褒めのことばをいただくとともに、子どもたちが作ったかるたを種差観光の材料として活用していく旨のお話があり、地域としてもバクアッしてくれろという言葉を聞いて大変うれしく思った。

全体指導の月館先生からは、どこにもない種差のよさを網羅したかるたになったことを褒めていただき、子どもたちの地域への愛着心を一層高めることにつながった。

○4月の計画では、一人ひとりが画用紙に「読み札」の言葉を書き、「取札」の絵を描いて50音を作成して終える予定だった。しかし、『ちゅうでん教育振興財団』の支援を受けることが決まり、本物のかるたを製作する計画に変更した。

○さらに、『スチール缶リサイクル協会』が、本校で取り組んでいることが、環境教育の視点からも意味のある活動である判断し、製作費の一部を支援してくださることになった。このことにより、より一層多方面へに発信することができるようになった。

### 3 成果や子どもたちへの効果

①上空からの写真は、「八戸パワードパラグライダークラブ」に撮影していただいた。5月の運動会の様子も上空から撮影、さらに、5月下旬には地域住民・卒業生・保護者も含めた上空からの周年記念の全体写真撮影も行った。自分たちの住んでいる地域を鳥目線で見るとは滅多にないことである。天然芝生の緑、空の色、海の色、の素晴らしさを再認識することにつながった。

②本校は、児童・保護者・地域住民が長年続けてきた「環境保全活動(環境教育)」「リサイクル活動(3R)」「海とかかわる活動(海洋教育)」が実り、各種の表彰を受けている。その成果をDVDにまとめ、創立140周年記念式典会場にて上映した。八戸市長をはじめ、歴代校長・教頭・教職員、さらにOBの方々、卒業した中学生など、多くの方々から、少人数でありながら、地区のよさを存分に取り込んでいる活動であるとお褒めの言葉をいただいた。そのことが、子どもたちの「自尊感情」や「自己有用感」を高めることになったものとする。

③「種差景観かるた」づくりの取組は、元八戸工業大学教授・月館敏栄先生、青森県都市計画課景観グループの全面支援を受け、事前指導や街歩き指導、かるた製作の手順など、計画的に進めることができた。また、八戸工業大学生が、子どもたちをサポートし、寄り添ってくれたことも大きな支えとなった。準備や作業、街歩きやかるたの言葉や絵への表現活動は、子どもたちにとって大変なものであった。しかし、活動ごとに、報道機関の取材を受け、報道されることから、自分たちの活動や作業の大切さや重要性を確認することにつながった。6月21日のまち歩きの様子、10月30日の画用紙に描いたかるたの様子など、大きな活動ごとに報道されたことにより、何とか8か月頑張り続けることができた。そして、12月22日、最終段階の「種差景観かるた」の完成お披露目を兼ねた「種差景観かるた」大会の実施は、かるた遊びを通して、かるたに表現された言葉や絵から、種差の自然、気候、花や岩、天然芝生地、海の幸の素晴らしさについて再認識することができたと思う。製作した「種差景観かるた」は、八戸市内小中学校、環境省の施設や地域の民宿、観光協会、JRの駅舎(地域の駅・種差海岸駅)などに寄贈する予定である。かるた遊びやかるたパネルの掲示を通して、多くの市民や観光客が、本地域のよさを理解していただけるものと確信している。

『ちゅうでん教育振興財団』の支援を受けた28年度の活動は、本校の教育活動の充実とともに、種差海岸の復興や種差海岸のよさ、美しさ、素晴らしさをアピールすることにつながったと言える